

[モロッコ]

ごみ袋の半透明化で、 環境意識を改善！

市内にごみが散在し、対策が急がれるフェズ市。
その原因は、黒いビニール袋とスカベンジャーだった。

Close Up!

ジャイカの
あしあと



半透明と黒 女性が握る2つの見えるか見えないかだ。言うまでもない話だが、モロッコ北部フェズ市の人々は、この視点のごみ問題に役立つとは思っていなかった。「ビニール袋を半透明に切り替えてくれないか」。市内65店舗の食料品店を回り、店主の説得に当たったのは青年海外協力隊の矢島存さん。指定のごみ袋がなく、リサイクルや分別回収システムが未確立のフェズ市では、買い物でもらう黒いビニール袋をゴミ袋に利用し、またリサイクルはごみ収集を生業とするスカベンジャーが、換金できるごみを取り出して売るといったインフォーマルな形で成り立っている。中身が見えない黒い袋を引きさちぎってごみを探すため、作業後のごみ回収コンテナ周辺には残されたごみが散乱。悪臭を放つだけでなく道路がふさがれ、都市環境を悪化させている。現在、市はごみ選別場の建設を予定しているが、スカベンジャーの失職が懸念され、対策の難しさに頭を抱えている。

そこで環境技師としてごみ問題

に取り組む矢島さんが、低コストでスカベンジャー支援にも役立つ「ごみ袋半透明化運動」を企画。黒いビニール袋の発生源である食料品店に、開けなくても中身が分かる半透明の袋への交換を依頼した。「文房具や生活必需品を備え、子どもも大人も多く出入りする食料品店なら、店員からごみ問題に関する情報が市民に伝わりやすく、環境教育にも貢献できる」と矢島さん。袋交換を渋る店主には、同僚やKOEICAボランティアと協力して説得を続け、市側にも「いい活動だ」と言われている。

コンテナ周辺は徐々に美化され、また「お客さんに『買ったものが見えないように黒い袋にして』と言われるがどうしたらいい?」「黒は環境に良くない。半透明を使っている」と店から受ける相談や報告に、店員の環境意識の高まりを実感し始める矢島さん。市民一人一人の意識の変化はまだ感じられないが、「種を植えれば必ず芽は出る」と期待を膨らませている。

